

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	幸手看護専門学校
設置者名	学校法人 橘心学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	第一学科	夜・通信	2130	240	
	第二学科	夜・通信	1485	160	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.satte-kango.ac.jp/info/enter/3414/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	幸手看護専門学校
設置者名	学校法人 橘心学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.satte-kango.ac.jp/info/enter/3406/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	大学名誉教授	2019.4.7～ 2023.4.6	組織運営全体
非常勤	医師	2019.4.7～ 2023.4.6	組織運営全体
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	幸手看護専門学校
設置者名	学校法人 橘心学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>																	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバス作成過程としては、保健師助産師看護師学校養成所指定規則及び看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインに則り、看護師に必要な教科・内容を検討し作成している。なお、関係教科において重複している単元の有無等を調整のうえ、自己評価の結果を元に2月末までに副校長が主となり、教務会を経てまとめ上げる。4月にホームページにて公表を行う。</p>																	
授業計画書の公表方法	http://www.satte-kango.ac.jp/info/enter/3411/																
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>																	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業科目の成績評価の方法は、シラバスに記載されている筆記試験、看護技術試験、授業・演習への参加態度・課題提出結果をもとに、学生に配布している学生便覧記載の成績評価の基準に基づき教務会にて判定している。判定は6割以上の成績および各科目時間数の3分の2以上の出席をもって合格としている。尚、不合格の場合、再試験、再実習を行い6割以上の成績をもって合格とし、修了の認定としている。</p>																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>判定</th> <th>基準点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S 評価</td> <td rowspan="4">合格 (単位認定)</td> <td>100～90 点</td> </tr> <tr> <td>A 評価</td> <td>89～80 点</td> </tr> <tr> <td>B 評価</td> <td>79～70 点</td> </tr> <tr> <td>C 評価</td> <td>69～60 点</td> </tr> <tr> <td>D 評価</td> <td>不合格(単位修得不可)</td> <td>59 点以下</td> </tr> </tbody> </table>	評価	判定	基準点数	S 評価	合格 (単位認定)	100～90 点	A 評価	89～80 点	B 評価	79～70 点	C 評価	69～60 点	D 評価	不合格(単位修得不可)	59 点以下	
評価	判定	基準点数															
S 評価	合格 (単位認定)	100～90 点															
A 評価		89～80 点															
B 評価		79～70 点															
C 評価		69～60 点															
D 評価	不合格(単位修得不可)	59 点以下															

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
 客観的な指標の算出方法は、履修科目の成績評価を基に1科目100点満点で採点し、全科目の取得点数の平均を求める仕組みを導入している。
 指標の算出方法はホームページに公表している。

客観的な指標の算出方法					
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)					
学科名		学年		学生数	
成績の分布					
指標の数値	～59点	60～69点	70～79点	80～89点	90～100点
人数					
下位1/4に該当する人数		人			
下位1/4に該当する指標の数値		点以下			

客観的な指標の算出方法の公表方法

<http://www.satte-kango.ac.jp/info/enter/2853/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定にあたっては、学生便覧に記載の以下に掲げる本校の教育目標を身に付け、学科試験及び実習の評価がC以上、出席状況3分の2を超える者に対し、卒業認定会議を経て卒業の認定を行う。

- ① 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合してとらえ、幅広く理解する総合的能力を養う。
- ② 人間としての個の多様性や価値観を認識し、知識・技術・態度を学び看護者としての責務を自覚し倫理に基づいた、看護実践ができる基礎的能力を養う。
- ③ 人間の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う。
- ④ 健康の保持増進・疾病の予防と治療、健康レベル(急性期・慢性期・回復期・終末期)や障害の程度に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。
- ⑤ チーム医療における看護の役割や他職種との連携の必要性を認識し、健康の保持・増進のため他職種と協力し、看護活動を実践する基礎的能力を養う。
- ⑥ 常に社会の動向に関心を持ち、豊かな人間性を養い、専門職業人として主体的に学び続ける基礎的能力を養う。

卒業の認定に関する方針の公表方法

<http://www.satte-kango.ac.jp/info/enter/2853/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	幸手看護専門学校
設置者名	学校法人 橘心学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.satte-kango.ac.jp/info/enter/3406/
収支計算書又は損益計算書	http://www.satte-kango.ac.jp/info/enter/3406/
財産目録	http://www.satte-kango.ac.jp/info/enter/3406/
事業報告書	http://www.satte-kango.ac.jp/info/enter/3406/
監事による監査報告（書）	http://www.satte-kango.ac.jp/info/enter/3406/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療看護分野		専門課程	第一学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼	3000時間	1965 時間	時間	1035 時間	時間	時間	3000時間
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人		116人	0人	12人	32人	44人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>シラバス作成過程としては、保健師助産師看護師学校養成所指定規則及び看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインに則り、看護師に必要である教科・内容を検討し作成している。なお、関係教科において重複している単元の有無等を調整のうえ、自己評価の結果を元に2月末までに副校長が主となり、教務会を経てまとめ上げる。4月にホームページにて公表を行う。</p>

成績評価の基準・方法

(概要)

各授業科目の成績評価の方法は、シラバスに記載されている筆記試験、看護技術試験、授業・演習への参加態度・課題提出結果をもとに、学生に配布している学生便覧記載の成績評価の基準に基づき教務会にて判定している。判定は6割以上の成績および各科目時間数の3分の2以上の出席をもって合格としている。尚、不合格の場合、再試験、再実習を行い6割以上の成績をもって合格とし、修了の認定としている。

評価	判定	基準点数
S 評価	合格 (単位認定)	100～90 点
A 評価		89～80 点
B 評価		79～70 点
C 評価		69～60 点
D 評価	不合格(単位修得不可)	59 点以下

卒業・進級の認定基準

(概要)

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定にあたっては、学生便覧に記載の以下に掲げる本校の教育目標を身に付け、学科試験及び実習の評価がC以上、出席状況3分の2を超える者に対し、卒業認定会議を経て卒業の認定を行う。

- ① 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合してとらえ、幅広く理解する総合的能力を養う。
- ② 人間としての個の多様性や価値観を認識し、知識・技術・態度を学び看護者としての責務を自覚し倫理に基づいた、看護実践ができる基礎的能力を養う。
- ③ 人間の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う。
- ④ 健康の保持増進・疾病の予防と治療、健康レベル（急性期・慢性期・回復期・終末期）や障害の程度に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。
- ⑤ チーム医療における看護の役割や他職種との連携の必要性を認識し、健康の保持・増進のため他職種と協力し、看護活動を実践する基礎的能力を養う。
- ⑥ 常に社会の動向に関心を持ち、豊かな人間性を養い、専門職業人として主体的に学び続ける基礎的能力を養う。

学修支援等

(概要)

- ・クラス担当制によりクラス全体のサポートと指導を行っている。
- ・アドバイザー制により、学生の個別の面談を通して、学習・生活全般に関して細かにサポートと指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
38人 (100%)	0人 (0%)	36人 (94.7%)	2人 (5.3%)
（主な就職、業界等） 病院			
（就職指導内容） 個人面接を通じて把握している進路先情報を基にして、面接マナー、進路先領域別の具体的な指導にあたっている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 看護師免許・准看護師免許・BLS			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
117人	5人	4.3%
（中途退学の主な理由） 体調の悪化や進路変更の為		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学年担当やアドバイザーによる個人面談を通じて、学生の修学支援に当たるなど取り組んでいる。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
医療看護分野		専門課程	第二学科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	2190時間	1470 時間		720 時間	
			2190時間			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人	63人	0人	8人	42人	50人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)															
<p>(概要)</p> <p>シラバス作成過程としては、保健師助産師看護師学校養成所指定規則及び看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインに則り、看護師に必要である教科・内容を検討し作成している。なお、関係教科において重複している単元の有無等を調整のうえ、自己評価の結果を元に2月末までに副校長が主となり、教務会を経てまとめ上げる。4月にホームページにて公表を行う。</p>															
成績評価の基準・方法															
<p>(概要)</p> <p>各授業科目の成績評価の方法は、シラバスに記載されている筆記試験、看護技術試験、授業・演習への参加態度・課題提出結果をもとに、学生に配布している学生便覧記載の成績評価の基準に基づき教務会にて判定している。判定は6割以上の成績および各科目時間数の3分の2以上の出席をもって合格としている。尚、不合格の場合、再試験、再実習を行い6割以上の成績をもって合格とし、修了の認定としている。</p> <table border="1" data-bbox="386 1323 1289 1675"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>判定</th> <th>基準点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S評価</td> <td rowspan="4">合格 (単位認定)</td> <td>100～90点</td> </tr> <tr> <td>A評価</td> <td>89～80点</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>79～70点</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td>69～60点</td> </tr> <tr> <td>D評価</td> <td>不合格(単位修得不可)</td> <td>59点以下</td> </tr> </tbody> </table>	評価	判定	基準点数	S評価	合格 (単位認定)	100～90点	A評価	89～80点	B評価	79～70点	C評価	69～60点	D評価	不合格(単位修得不可)	59点以下
評価	判定	基準点数													
S評価	合格 (単位認定)	100～90点													
A評価		89～80点													
B評価		79～70点													
C評価		69～60点													
D評価	不合格(単位修得不可)	59点以下													

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定にあたっては、学生便覧に記載の以下に掲げる本校の教育目標を身に付け、学科試験及び実習の評価がC以上、出席状況3分の2を超える者に対し、卒業認定会議を経て卒業の認定を行う。</p> <p>⑦ 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合してとらえ、幅広く理解する総合的能力を養う。</p> <p>⑧ 人間としての個の多様性や価値観を認識し、知識・技術・態度を学び看護者としての責務を自覚し倫理に基づいた、看護実践ができる基礎的能力を養う。</p> <p>⑨ 人間の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う。</p> <p>⑩ 健康の保持増進・疾病の予防と治療、健康レベル（急性期・慢性期・回復期・終末期）や障害の程度に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>⑪ チーム医療における看護の役割や他職種との連携の必要性を認識し、健康の保持・増進のため他職種と協力し、看護活動を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>⑫ 常に社会の動向に関心を持ち、豊かな人間性を養い、専門職業人として主体的に学び続ける基礎的能力を養う。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担当制によりクラス全体のサポートと指導を行っている。 ・アドバイザー制により、学生の個別の面談を通して、学習・生活全般に関して細かにサポートと指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
34人 (100%)	4人 (11.8%)	30人 (88.2%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 病院			
(就職指導内容) 個人面接を通じて把握している進路先情報を基にして、面接マナー、進路先領域別の具体的な指導にあたっている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師免許・BLS			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
67人	3人	4.5%
(中途退学の主な理由) 経済的、学業不振のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任教員等による個人面談を通じて、学生の修学支援に当たるなど取り組んでいる。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
第一学科	300,000 円	540,000 円	430,000 円	実習費・施設整備費・教材費・研修費
第二学科	100,000 円	480,000 円	360,000 円	実習費・施設整備費・教材費・研修費
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
第二学科の入学金は、本校卒業者及び本校卒業見込み者は免除となる				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.satte-kango.ac.jp/info/enter/3406/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>評価項目：教育理念・教育目的・教育目標・教育運営課程・経営管理課程等</p> <p>評価委員の構成：定数7名、選出区分（企業・実習先・外部講師・有識者・地域住民）</p> <p>評価時期：3月末頃</p> <p>委員長は、関係者評価の評価結果をまとめ、報告書を作成するものとする。</p> <p>教職員は、関係者評価の結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学園監事	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	学識経験者
本校講師	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	学識経験者
鳳凰会グループ看護介護局 局長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	医療関係者

日本医科学研究所 取締役	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	医療関係者
藤書院 代表	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	企業関係者
ピア21 デザインワークス 企画部長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	企業関係者
幸手市体育協会 長倉支部長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	地域住民
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.satte-kango.ac.jp/info/enter/3406/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.satte-kango.ac.jp
--